

平清盛ゆかりの史跡 大輪田泊～兵庫区南部編～



平清盛と大輪田泊

清盛は、父・忠盛が九州に居たころから、中国（宋）との貿易は大きな利益をもたらすものであると注目していました。

清盛が行った、当時、大輪田泊と呼ばれた兵庫の港の修築は、ここに宋船を引き入れて、貿易による利益を一手に握ろうとするものでした。しかし、大輪田泊では、東南の風が船に大きな被害を与えることがあったため、清盛は、経ヶ島と呼ばれた築島を設け、その島蔭を利用して船を守ることを計画します。大変な難工事であったと伝えられ、人柱伝説も生まれました。

ここでは、兵庫区南部、かつての大輪田泊周辺に残る清盛ゆかりの史跡を紹介します。

清盛塚・十三重塔・平清盛像



清盛塚と呼ばれる十三重の石塔には、清盛の遺骨が納められていると伝えられてきましたが、大正12年の調査で墳墓でないことが確認されました。弘安9年(1286)の銘を持つ石塔は、県の文化財に指定されています。市電の道路拡張工事で現在地に移され、昭和43年には平清盛像も建立されました。清盛塚の横には、琵琶塚と呼ばれた古墳があったことを示す碑があります。清盛の甥で琵琶の名手・経正と結び付けて、経正の塚といわれるようになりました。(切戸町)

平清盛廟 (能福寺)



能福寺は、清盛が得度した寺と伝えられています。養和元年(1181)に清盛が京都で没すると、住職の円実法眼が清盛の遺骨をこの地に持ち帰って法華堂に納めたとされていますが、遺骨の所在は確定されていません。(北逆瀬川町)

金光寺



夢枕に立った童子のお告げに従って、清盛が大輪田泊の海に網を降ろさせたところ、海中より黄金の薬師如来が現れました。それを本尊としたのがこの金光寺と伝えられています。（西仲町）

松王丸入海の碑・供養塔（築島寺）



清盛は、大輪田泊に入港する船を東南の風から守るため、築島・経ヶ島を築かせます。難工事のため、17歳の松王丸が人柱となって、経文を記した石を沈めて基礎としたので経ヶ島と呼ばれたと伝えられています。（島上町2丁目）

萱の御所跡碑（薬仙寺）



萱の御所は、清盛が後白河法皇を閉じ込めた場所だと伝えられています。現在は、薬仙寺の境内にその碑が立っています。（今出在家町4丁目）

七宮神社



清盛が経ヶ島を築くために、塩樋山という山を崩したといわれています。山に祀られていた神の怒りにふれぬように七宮神社を建立し、港の安全を祈願したと伝えられています。（七宮町2丁目）

恵林寺



恵林寺には、清盛が経ヶ島を築いた際に水難克服を祈願した弁才天が祀られており、波除弁天と呼ばれて親しまれています。（兵庫町2丁目）

時雨の松の碑（福海寺）



清盛が好んだ時雨の松は、青葉から玉露の滴を垂らし、靈験あらたかであったといわれ、また清盛の隆盛を導いたと伝えられています。今は松はなく、碑だけが福海寺に残されています。（西柳原町）

平経俊五輪塔（鎮守稻荷神社）



清盛の甥・経俊は、一ノ谷の合戦の際に生田の森で戦死しました。鎮守稻荷神社には、経俊を供養する五輪塔が残されています。（西出町）

巖島神社



巖島神社が鎮座するこの地は、旧湊川の川筋にあたり、地下水も湧き出していたといわれています。清盛は治水のためにこの社を建立したと伝えられています。（永沢町4丁目）

魚の御堂跡



現在の切戸町あたりには清盛が魚を供養するために建てた魚の御堂があったと伝えられています。切戸町に近接する中之島町2丁目の阿弥陀寺境内には、魚の御堂の礎石とも伝えられる大石があります。

史跡案内マップ

